

意見提出者	ウィザス高等学校・ウィザス ナビ高等学校
1. 項目	通信制高等学校における報告課題の提出及び添削指導について
2. 既存の制度・規制等によってICT利活用が阻害されている事例・状況	平成25年度より完全移行される「学習指導要領」において、通信制高等学校における添削指導はマークセンス方式その他の択一式だけによる設問を否定し、個々の生徒に対して、従前の添削指導（赤ペン指導）を行うように定めている。
3. ICT利活用を阻害する制度・規制等の根拠	平成21年7月告示 高等学校学習指導要領解説（総則編） 第7節 1-（3） 例えばマークシート形式のように機械的に採点ができるような課題や、 <u>択一式の問題のみで構成される課題は添削指導としては不適切である。</u> 特に生涯学習の観点から高齢者を含む社会人の学習機会として通信教育の果たす役割は大きく、長時間の就学ブランクを添削指導で補っていくためには課題についての周到な研究と配慮が必要である。
4. ICT利活用を阻害する制度・規制等の見直しの方向性についての提案	すでに種々の教育機関等でICTを活用し、面接指導の一部についてPC等を利用した形態での授業展開を行い、自宅のPC或いは種々のモバイル通信の利用による報告課題の提出及び報告課題に対する解説や重要ポイントの指導が行われている現状に対し、あえて時代に逆行するような従来の赤ペンによる添削指導を定める指導要領は、現状、多くの高校就学年齢相当の生徒が在籍する通信制高校の生徒とその他の全日制高校に在籍する生徒との間でICT利活用において結果的に差をつけることになりかねない。今後の国が進める教育において情報活用能力をつける方針に照らしてみても、このことは、卒業後の進路（進学・就職等）においても、通信制高校出身者に不利益を与えることにもつながりかねない。社会人層への学習指導の配慮はしつつも、上記の理由から必ずしも従前の添削指導法を強化する合理的な理由は存在しないと考える。 そのため、現状行われているPCおよびモバイル等を利用した報告課題提出法及びその報告課題に対する解答・解説を主とする添削指導も可とする指導要領の内容へ再検討いただきたい。